

社協だより ふれまち

～ふれあい・たすけあい・ささえあい～



第160号

平成28年
1月8日発行



「AMA Lab」のみなさん

ボランティア活動で、井原にやさしさを

【第十三笑】
目覚ましのベルはまだかと起きて待つ
(ボプラ社 シルバー川柳引用)



「ホッとお茶でも
どうぞ」



健康チューブで楽しく
簡単ストレッチ!

「AMA Lab」は、吉備国際大学の講師とゼミの生徒で2010年4月に設立。
設立以来、井原市やすらぎセンターでのボランティア活動で利用者との交流活動を継続しています。



この広報紙は、共同募金の配分金の一部で作られています。

ホームページアドレス: <http://www.ibara-syakyo.jp/>

メールアドレス: i-syakyo@ibara.ne.jp

発行者

〒715-0019 井原市井原町1110番地
社会福祉法人 井原市社会福祉協議会
電話(0866)②1484 FAX(0866)②1496
芳井支所 電話 ⑦1366 FAX ⑦1363
美星支所 電話 ⑦4141 FAX ⑦4170

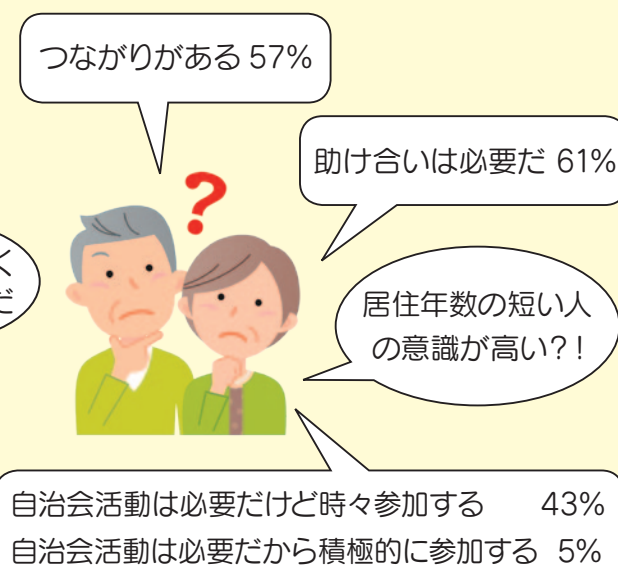
出部地区社協の取り組み紹介 NO.2 ～「おかげさまセンター」設立にむけて～ アンケート調査報告会開催!

【アンケート集計で出てきた今後の課題】

① 出部地域の魅力や誇り

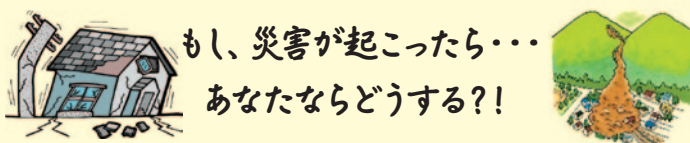


② 地域のつながり、助け合いの必要性



③ 出部地区の組織の整理

防災意識の向上が必要!



福山平成大学 福祉健康学部福祉学科
佐藤皓一教授によるアンケート調査報告会
(11月21日(土) 出部公民館にて)

課題 コミュニケーション強化!

昔からあった「向こう三軒両隣」を再発掘してみませんか?!

～さあ!「おかげさまセンター」へあなたのチカラを!～

平成27年度 井原市社会福祉大会

12月2日(水)、アクティブライフ井原にて平成27年度井原市社会福祉大会を開催しました。地域福祉関係者など約250名が一堂に集う中、多年にわたり地域福祉の向上に貢献された方々の表彰式が行われました。

続いて、社会医療研究所所長岡田玲一郎氏による「生きて、生きて、生き抜くいのち」と題した講演がありました。「老いを生き、病も生きて、死をも生きる」という言葉が印象的で「生」だけでなく「死」についても考えさせられるお話でした。

受賞された方々

【福祉功労表彰】

友 國 祝 雄
高 橋 雅 廣

【善意賞】

A M A Lab
(敬称略)

また、共同募金の助成を受けた団体の声をDVDにした「井原へ届いた! 赤い羽根の輪」の放映では、共同募金が井原の町の身近な活動につながっていることを多くの方に知っていただくことができました。



DVD差し上げます!
地域福祉活動などにご活用ください。



赤い羽根共同募金への寄付つきグッズありま〜す!

寄付つきグッズは、全額が赤い羽根共同募金への募金となります。「じぶんの町を良くするしくみ」として井原市の地域福祉活動に役立てられます。寄付つきグッズで井原の町をさらに良くしましょう!



初音ミク バッジ



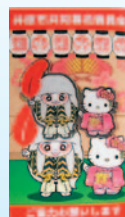
500円募金

初音ミク クリアファイル



各100円募金

でんぢゅらくん × キティちゃん コラボピンバッジ



500円募金

《問い合わせ先》井原市共同募金委員会(井原市社会福祉協議会内) ☎62-1484

～あなたの熱き思いを川柳に込めて～

おもしろボランティア川柳大募集! 新企画

ボランティアに関する楽しい川柳（五・七・五）を募集します。
応募作品は平成28年度から社協だよりにて随時掲載予定です。
オリジナルに限り、誹謗中傷的な作品は除きます。

【応募方法】ハガキ、FAX、メールにて、川柳、住所、氏名（ふりがな）を明記のうえ、ご応募ください。

※メールでの応募の場合は必ず件名に「ボランティア川柳応募」と入力してください。

【締め切り】 毎月末日まで

いつ掲載されるかな？
楽しみ！



カフェのオーナーに興味はありますか？

赤羽根カフェ立ち上げ説明会

「赤羽根カフェをしてみようかな」と思ったら、赤羽根カフェ立ち上げ説明会へお気軽にご相談ください。

※ただし、通常のふれあい・いきいきサロン活動で利用することはできません。

日 時：平成28年2月12日（金） 11：00～12：00

場 所：井原市総合福祉センター

内 容：赤羽根カフェの立ち上げに関する説明・相談等



生きがいのある学習の場と笑って健康元気アップ講座

『小田川大学』

【開催日】 全9回（平成28年5月～平成29年2月）

【定 員】 150名（先着順） 【対 象】 65歳以上の方

【申込先】 いばらサンサン交流館

【申込開始日】 平成28年2月16日（火）

笑える講義や、健康についての講義など盛りだくさん！

11月には修学旅行もあります！

《問い合わせ先》 いばらサンサン交流館 ☎62-6100



参加者募集中!

災害ボランティア養成講座



*日 時 平成28年1月24日(日)・2月7日(日) 13:00~16:30

※同じ内容ですので、参加日を選んでお申込みください

*場 所 井原市民会館 鏡獅子の間

*講 師 自治体等自主防災組織研究会事務局長・防災士 村上浩司氏

*内 容 避難所運営ゲーム『HUG〜ハグ〜』体験

避難所運営を任されたという想定の下で、避難者の状況や要望を考慮しながら対応する術を学ぶ、わかりやすいゲーム型訓練です。



「ありがとう!ボランティア交流会」 ～地域カパワーアップ講座同時開催～

キャスター・アナウンサー

特別ゲスト 露 木 茂 氏



地域福祉活動から見える、自分らしい生き方のヒントについてのお話をされます。
見たり・聴いたり・笑ったり!ふるまいカレーを食べて、楽しい一日にしましょう!
ぜひご参加ください。

日 時: 平成28年3月4日(金)
10:30~15:00

場 所: 井原市芳井生涯学習センター

出演内容: ボランティア活動報告や
演劇・歌・演奏などの発表

対 象: ふれあい・いきいきサロン活動など
現在ボランティア活動に参加している方



出場者大募集!

ボランティア活動の報告など、みなさんの積極的な
ご応募をお待ちしております。

申込締切: 平成28年 2月12日(金)



ふれあい福祉相談センター

秘密厳守／相談無料

問い合わせ、予約は
井原市社会福祉協議会 ☎62-1484

相談内容	日	時	内 容
ふれあい福祉相談	月～金曜日	8:30～17:00	日常生活上の心配ごと・悩みごとなどのあらゆる相談
法律相談	1/12(火)	13:00～16:00	法律上の難しい問題の相談(財産・相続・金銭
	2/2(火)	10:00～15:00	貸借・境界等)1件30分
	2/16(火)	13:00～16:00	貸借・境界等)1件30分
	3/1(火)	13:00～16:00	以内で事前に予約必要
療育相談	【井原市総合福祉センター】		
介護相談	月～金曜日	8:30～17:00	就学前の子どもたちに関する心配や悩みごとの相談 家庭介護や各種サービスに関する相談

問い合わせ先
協働推進課 市民活動係 ☎62-9508

行政相談	1/14(木)・1/28(木)・2/10(木) 2/25(木)・3/10(木)	10:00～12:00	行政全般に関わる相談 (道路・住宅・公害)
	1/21(木)・2/18(木)・3/17(木)	9:00～11:00	
	1/19(火)・2/16(火)・3/15(火)	10:00～12:00	

ありがとうございました

井原市社会福祉協議会

平成27年10月16日～平成27年12月15日(敬称略)

◆香典返し・満中陰志

亡父 井原町 早川健三	亡母 木之子町 東森弘高
亡父 東江原町 大塚宜明	亡父 上出部町 塚下純志
亡母 木之子町 原木幹雄	亡父 稗原町 田中哲也
亡母 門田町 安原正哲	亡父 西江原町 丸山義晴
亡母 大江町 山本悦史	亡妻 笠岡市 広田悦始
亡夫 木之子町 中尾美代子	亡妻 野上町 飯居 毅
亡父 七日市町 三宅京子	亡父 大江町 熊谷文男
亡父 西江原町 中新英之	亡父 井原町 藤井 洋
	光田英樹

亡父 上出部町 千々木隆造	亡父 芳井町吉井 上田真之
亡母 大江町 寺岡勝久	亡父 芳井町宇川 渡邊忠文
亡父 門田町 木下浩次	亡父 芳井町吉井 西田幹生
亡母 井原町 塚原秀昭	亡母 芳井町種 橋本彰夫
亡父 大江町 岩梶幸子	亡父 芳井町与井 吉岡雄二
亡母 木之子町 妹尾正樹	亡父 芳井町吉井 妹尾茂樹
亡母 矢掛町 井辻辰子	亡父 芳井町川相立 石喜昭
亡父 東江原町 唐木英規	亡妻 芳井町吉井 三宅祐久
亡夫 木之子町 藤井 薫	亡母 芳井町梶江 坂本哲朗
亡父 西江原町 内山 茂	亡母 芳井町吉井 渡辺久雄
亡父 上出部町 佐能亨史	亡夫 美星町鳥頭 井上安子
亡母 大江町 武田吉弘	亡母 美星町西水砂 渡辺聡司

◆病氣見舞い返しにかえて

芳井町与井 金森直樹	亡母 美星町黒忠 山室英雄
美星町星田 川上愛子	
美星町黒忠 平木和雄	

◆一般寄付

井高40会

井原町

美星町西水砂

◆物品寄付

高屋町

◆福祉用具借用のお礼

芳井町種

芳井町梶江

芳井町吉井

木之子町

佐能ミツエ
水谷光夫

橋本弘江

内海良雄

妹尾茂樹

丸尾勝志

ほっとコラム



若い日、新居で迎える初めての正月に、松竹梅の小さな寄せ植えの鉢を飾った。正月が過ぎ、その鉢の梅の花も散った頃、庭の片隅に地植えした。小指ほどの松はいつの間にか見えなくなつたが、梅と竹の替わりの笹は生き着いてくれた。

笹がはびこつては困るので、余分な所に出てきたら、毎年せつせと引っこ抜く。が、梅には盛大に咲いてほしいと、肥料をやつたり剪定をしたりして大事に育てた。けれど、幹は太くなり、人の背丈を超すようになってもなかなか満足な花付きの年はなかった。

ところが、この梅と同年の娘が社会人になろうという年、真白な花を幹が隠れるほど見事に咲かせてくれた。

それから十年、あれほどの花付きはまだ一度もない。猛暑や長雨はどうしてやりようもないが、少しでも過ごしやすいように手を貸すから、機嫌よく咲いておくれと、毎年繰り返し、新春の願いである。

